

変わる、地域づくり

Vol.11

総集編②
最終回

第1回から第9回までは、金ケ崎町で実際に変化している事から、皆さんに地域づくりを考えてもらい、第10回は、総集編①として町内で行っている地域づくりの「変わる」「変わった」を紹介しました。最終回の今回は、地域の未来に向けた「はじめの一步」を考えてみます。

自分自身が楽しんでいますか？

「運動会に人が集まらなくて大変」「役員のなり手がいない」といった声が多く、地域活動を頑張っている皆さんの疲労感が伝わってきます。

一方で、人が集まる地域、活動が活発な地域には「やっている人が楽しんでいる」という共通点があります。「好きでやっているんだよ」「自分が楽しいからね」と自分自身が楽しみながら活動を支えている人、「先輩たちにお世話になったし、そのお返しだと思っている」と感謝の気持ちで活動を支えている人の周りには自然と人が集まっています。

大人は子どもたちに背中を見せていますか？

町では、青少年に町の未来を考える機会を創出を進めています。町外の高校に進学する生徒も多い中、中学校までに地域との関係の構築や町の未来を考える機会を増やすことが重要になるからです。一方、子どもたちが未来を考えるためには、実際に地域の中で未来に向けた取り組みをしている大人を知ることが大切です。昨年度からスタートした中学3年生を対象とした「まちあるき学習」では、地域の中で活動している大人と触れ合う機会が生まれました。子どもたちを地元で縛りつけるのではなく、様々な未来の選択肢の中から「金ケ崎町で暮らしたい」「金ケ崎町で生活ができる」というイメージを持たせるため、大人たちが未来を見据えて楽しんでいる姿が大切になってきます。

未来を想像していますか？

21世紀は明るい未来が待っているという経済成長の時代から、先行きが見えない時代になり、未来に不安を感じる人も多くなっているようです。日本の人口も、今後急速に減少していくことが予想され、金ケ崎町も人口が減少する

加してくる人が増えるようです。自分自身が楽しんでいるか、改めて考えてみましょう。

子どもたちの事業に なっていますか？

地域では、小学生を対象に、高齢者との交流や地域の歴史を学ぶことを目的とした事業が多く開催されていますが、年々参加者が減少しています。スポーツ少年団や学習塾など地域行事以外の選択肢が増えていたり、児童数そのものの減少など様々な要因がありますが、「事業の必要性が分からない」といった声も聞こえてきています。

子どもと親世代、祖父母の世代が交流する三世交流は、核家族化が進む現代では、子どもたちが多くの大人と関係を持つことで成

事が予想されています。

「私の地域は人が増えている」などの声もありますが、AIの普及などによる働き方の劇的な変化、出生率の低下などといった要素を考えると、人口減少を前提に未来を考える必要があります。AIの普及は、今まで人が行っていた活動が機械に変わり、負担を軽減してくれることも期待され、私たちの暮らしにもプラスの影響を与えてくれます。

孫氏の兵法書には「将、吾が計を聴きて之を用うれば、必ず勝たん」という一文があります。「時間をかけて、様々な危険を想定して準備をすれば、目標は達成できる」という意味ですが、高齢化や人口減少、働き方の変化などから発生する課題を考え、AIによる技術革新などによる変化を想像することが大切です。自分や家族の将来、地域の未来を考えてみましょう。

一人一人が考え行動を

本特集では、「地域づくりのあり方検討会最終報告書」の内容を中心に、様々な視点から地域づくりを考えてきました。これまでの地域での活動を尊重しつつ「これからの時代に対応す

長に良い影響を与えられると言われています。多くの地域では、しめ縄作りなどの高齢者からの技能の伝承や、軽スポーツを子どもたちと一緒に交流が行われています。しかし、子ども目線ではなく大人目線のイベントのため、イベント後の交流に発展しない場合も多いようです。また、本来は三世交流が目的のはずが、親世代が置き去りにされるといいうケースも多いようです。

地域の歴史や文化を学ぶことも重要ですが、地域の大人が子どもたちや他の大人に興味を持つことも大切な交流の目的です。子どもたちが学んでいることや遊んでいること、考えていることを知り、子どもの目線の活動になっているか考えてみましょう。

するために必要なことはなにか」という視点から、現在の活動に疑問を投げかける形で進めてきました。現在の取り組みそのものを否定するのではなく、地域によって目指す姿や課題も異なるため、様々な世代の声を聞きながら地域づくりを進めていくことが大切であるという考えから、このような形をとってきました。

地域づくりを進めるにあたり、「地域のために」という思いが先行することがありますが、「自分のために地域がある」という視点も大切です。未来の自分や子どもたちのために、どんな金ケ崎町を残していけるのかを一人一人が考えていきましょう。

未来のために考えよう

変わる、地域づくり
(完)



高校生が町を盛り上げるためにイベントを企画し実施しました



中学生の「まち歩き学習」では、地域の未来をまとめました

● 問い合わせ先 ●
中央生涯教育センター地域づくり推進室 (☎ 44-3123)